

1-1月は試念会の開催で、お客様が多くいました。話をする機会が多くありました。話のなかで、今年度は荷動きが昨年より悪く、仕入れが難しい状況と言われる方は多くありました。大手フレカット工場や有力工場では、非住宅や集合住宅の受注等で機械の稼働率が9割台まで回復しているが、一般住宅については受注が少ない状況です。また、リフォーム物件も少なく荷動きが悪い状況が続いている。1-1月から年末まで忙しくなってくる時期ですが、十分な受注を確保している訳ではない為、荷動きが不透明な状況です。

森林整備便り

大分 務化と所有不動産記録 証明制度についてお話をします。

山の立木を購入する際、その山自身を調査することも大事なので、個人的にもつとも時間がかかると思うのが、相続登記未了地への対応です。

科される場合がある、という法律です。実際のおおまかな流れとしては、①法務局にて登記官が相続登記の申請義務違反を把握②相続人に履行を催告③相続人がこれに応じないと裁判所にて裁判、というところのようで、山林所有者の皆さんのへの意識付けになって下さる」と嬉しいです。

また、同法律の一助として2026年2月2日から始まるのが「所有不動産鑑定士試験」です。いよいよ2月2日から始まります。

周易

以上の理由から、相続登記未了地には頭を悩ませている為、令和6年4月1日から始まった相続登記の義務化の動向には、ひそかに期待を寄せています。同制度は、日本全国に存在する「所有者不明土地」の解消の為に制定されたものです。大雑把と言ふと、相続したら3年以内に登記を申請する」と

科される場合がある、という法律です。実際のおおまかな流れとしては、①法務局にて登記官が相続登記の申請義務違反を把握②相続人に履行を催告③相続人がこれに応じないと裁判所にて裁判、というところのようで、山林所有者の皆さんのへの意識付けになって下さる」と嬉しいです。

また、同法律の一助として2026年2月2日から始まるのが「所有不動産鑑定士試験」です。いよいよ2月2日から始まります。

防と体調管理のほどお気を付けてください。
ここ数年、猛暑猛暑で暑さが酷くなっていますが、12月6日土曜日には添田町で氷卓の気温となりました。先日、添田町津野のお客様のお宅へ伺った際にお聞きしたのですが、6日朝には氷点下5℃だったそうです。暑さが目立つ近年でも1-2月ではあまり聞かない

だ発表されていない」とも多いですが、来年の2月2日、新制度のスタートに期待したいところです。

所有不明土地の問題は全国的にも深刻で、政府広報によるところの総面積は九州本島の面積よりも広いそうです。少しずつでもこの問題が解消され、私たちも山主様にスムーズに施業の提案ができるよう、今後も同法律制度を周知していくたいと思います。



しては、添田町の町樹として、
樹木保存のため、木の枝を剪定する
作業を行なう。この作業は、主に、
木の枝を剪定する作業を行なう。
木の枝を剪定する作業を行なう。

生徒と一緒に植栽していく方、サポートの方々も増えたうえ、今年は田川高校の生徒たちが数人参加されたので全ての参加人数は100名を超えていたようです。

感した次第です。話は変わります
が、例年開催され
ている。添田小学校の卒業記念植樹
が12月9日に開
催されました。今
年度の卒業となる
6年生は2クラスあるのですが、冒頭お
伝えしたインフルエンザにより6年1組
が学級閉鎖となり記念植樹に参加出来
た生徒は約半数となつたそうです。し
かし、今年度春に添田町内の小学校が
統合されたため、生徒数も増え例年と
変わらない生徒数の参加となつたよう
です。添田町の取り組みを支援賛同さ
れる企業の方々も年々増加しており、





ることはなかつたのですが、開会式での添田町町長の挨拶の中で今年度開校した新校舎の感想を聞かれた生徒の中からはじめ「サイゴーです」となど元気な言葉や挨拶が聞かれ、「こちらも清々しい気持ちでの参加が出来たと思います。

日中関係の悪化などの報道がなされていますが、原木輸出をされている方に伺ったところ、先行きの不透明感はあるが民間の業者間ではさほど影響はない、特に大径材の輸出は順調なようです。米の価格高騰の時のように報道が先行し影響とならないか心配ですね。

詳細では、杉4m~4cm~280cmまで
の直、小曲グレードは強気で先月同時
期と比較すると1,000円~2,00
0円ほどの間で上がり傾向。その他は
横ばい。桧も同じような内容で4m~4
cm~300cm以上の直、小曲グレードで1
000円~2,000円の上がり幅とな
っています。

現在の北部九州の原木相場ですが、全般的にいうと杉、桧とともに11月中旬まで下がり傾向であった相場が11月下旬より上がりはじめ、現在では高値に

ることはなかつたのですが、開会式での添田町町長の挨拶の中で今年度開校した新校舎の感想を聞かれた生徒の中からは、「めっちゃいい」「サイコーです」など元気な言葉や挨拶が聞かれ、こちらも清々しい気持ちでの参加が出来たと思ひます。

編集後記

2026年(令和8年)1月9日(金)
商売繁盛と
安全祈願祭
2026年も何卒よろしくお願いいたします！

新
春
初
市

◎クマ被害について、2ヶ月に渡り話題にしているが、「ニュースでも毎日のように報道がある。そこでふと気になつた。」この地方の林業関係者に驚きはないのか?無事なのから?林野庁から「1月7日付けで出されている文書」とよると10月に新潟県で林業関係者2名が測量作業中にツキノワグマに遭遇し負傷する事故が発生している。他にも6月に長野県で2名が襲われている。どちらも大事には至らなかつた模様。しかし気が気ではない。2003年の記事になぜ農業に比べて林業関係者の熊被害は少ないのか?それは、林業は基本、針葉樹林の中で働いており、熊は餌となるどんぐりなど広葉樹林で活動するから…などと書かれてあったが、さすがにそれはのん気過ぎるだろう。林業木

材製造業労働災害防止協会の災害発生状況には、20—5年に北海道で死亡災害が起つてゐる。以下、速報の抜粋森林調査のため、同僚の人とともに造林地にて植栽木の枝払い作業を行つてゐたところ、一部の作業者が熊らしき黒い物体を発見して即座に避難したが、被災者だけ見当たらなかつたため現場付近を捜索したところ、被災者が熊の巣穴付近でうつ伏せの状態で倒れていたのを発見された。怖すぎる環境省からクマ類の出没対応時マニュアル改訂版なるものも出されている。講習会なども行われてゐるようだ。しかし、チエーンソーも平気なクマも増えてきて、いるとの証言もあり、相當気を付けないと…とあつたが、それだけでは不十分だらう。個々の力だけでは限界がある業界全体の対策が急がれる。